

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202148		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホームみずあおい 1階		
所在地	静岡県静岡市葵区北3丁目26-29		
自己評価作成日	平成30年2月15日	評価結果市町村受理日	平成30年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&jigyosyoCd=2274202148-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成30年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

湖山医療福祉グループ理念「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」とグループホームみずあおいの理念「居心地の良いぬくもりあふれる光の中で楽しい時間をいつまでも」を実践すべく、お客様中心のケアが出来るように職員みんなで日々努めています。

またみずあおいに来て良かったと思ってもらえるように新しい取り組みや企画を考え、お客様たちに喜んでもらえるように日々努めており、行事や企画の写真を撮影してフロアに飾ることで居心地の良い明るい雰囲気を演出し、なかなか会いに来れないご家族の方々にも生活が分かるように毎月1回は写真付きのお便りを郵送して関係性を繋いでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「初めて」の焼き芋大会は星のしずくの職員が大きな窯で焼く作業を仕切ってください、ほかにもグループホームゆひもやとは職員交換実習、グループホーム百葉わらしなどはお互いの夏祭りに利用者や職員が訪問し合うといったことが日常的にあり、29の事業所をもつ法人のスケールメリットを生かした活動があります。また地域では昨年には組長の役も担い、防災・環境整備や祭りの神輿もかつて地域住民に溶け込み、本年度は地域性を鑑み「土砂災害に関する避難確保計画」を策定し、2月に訓練をおこなっています。ISOを導入したことも基盤となり、業務のスリム化が推進されていることも随所で確認でき、大いに頼もしい事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念(部署理念)をフロアの壁に掲示し、職員と共有を図っている。	法人理念とともに事業所理念を大きく掲げ、「法人職員として～業務遂行力はどうか、専門職としてのスキルは？」といったことを上下半期毎に確認し、自己評価は「なりたい自分になる」ための具体的方法が挙げられていて、個々の成長を理念の実現につなぐ仕組みがあります。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	朝晩のあいさつの徹底はもちろん、運営推進会議や祭りなどを通して地域交流を図っている。地域行事にも可能な限り参加し、1月には焼き芋大会を開催して地域の方々にもお配りした。	昨年は組長の役を担い、防災・環境整備や祭りの神輿もかつぎ、地域住民に溶け込んだ活動が叶っています。また本年初めての試みとしてドラム缶で焼き芋大会をおこない、近所にもポスティングして地域の集いのように晴れやかな1日に結ばれています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設12年を経て、地域への浸透も進み、ご家族からの直接相談が増えてきた。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各種報告や意見交換の中からサービス向上につながる取り組みを実践している。	福祉委員も兼ねる自治副会長から「地域の防災訓練で車いす体験のプログラムに協力してほしい」との申し入れが会議の中で上がり、協力に応じた例があることから、メンバーが主に職員となっはいるものの、充実した内容に昇華していることが覗えます。	欠席者には議事録(簡易版でもよいかと)を届けると、次回の話し合いがスムーズとなり、なお良いと思います。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類提出や相談事項等はなるべく電話や郵送で済ませず、行政窓口へ直接足を運び、関係性を築いていけるように努めている。	地域包括支援センターが核となり「地域グループホーム部会」が平成29年度5月からスタートして、管理者と介護支援専門員が全出席のうえ、他事業所との情報交換で刺激を受け、学びを深めています。シニアサポーターの登録は済んでいますが、今のところ実績はありません。	新たに介護相談員の制度を利用すると、なお良いと思います。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修参加や事業所内勉強会等を通じ、全ての職員が身体拘束をしないケアを理解し、取り組んでいる。	日中は玄関、ユニットの施錠はありません。年間研修に組み込みスピーチロック、フィジカルロックの定番メニューのほかに、家族の想いに触れた内容も含めたオリジナル資料をつくって実施しています。またストレスチェックもおこない、未然に防ぐリスクマネジメントへの配慮もみられます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加や事業所内勉強会等の学ぶ機会を設けており、虐待防止に努めている。「こやまケア」なるケアの指針に基づき、御本人を尊重したケアに努めている。			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については学ぶ機会を設けられていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は所長が行い、不安や疑問を解消した上での契約を心掛けている。改訂の際も説明会を開催してご家族の同意を得た上で進めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	誰もが利用できる場所にご意見箱を設置し、毎月のお便りにもご意見欄を作成している。また年に1回顧客満足度アンケートを実施しており、運営に反映させている。	毎月請求書と一緒に「〇月のご報告」と題して送る通信には「施設内にはたくさんの写真が掲示してあります。いつでもプリント可能ですので是非～」とメッセージを入れるとともに、意見欄を設けています。実際「プリントして～」と利用者本人から声がかかることもあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業計画策定のアンケートを職員全員に取り、事業計画作成に役立てている。また運営会議、部署会議等で職員の提案や意見を聞く機会を設けている。	年間研修は単におこなうだけでなく、「参加結果兼アンケート」で習熟度も測り、不参加者のフォローも資料と口頭説明を以て実施され(こちらも把握度をチェックしている)、職員の育ちをマネジメントサイクルに乗せていることから、職員の意見量や発言の質にも好影響を及ぼしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	最低でも年に2回は個別面談を行い、個々の職員の抱える問題に向き合っている。直近は「業務のスリム化」に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や事業所内勉強会、新人教育のOJT、介護福祉士の実務者講習など、職員教育の仕組みがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所との交換実習やケア評価等を通じて交流を図っている。地域包括主催のネットワーク作りにも毎回参加している。交流のある施設からの見学や入居問い合わせなどの事例もあった。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居契約の前に必ずインテークの為に本人様の自宅を訪問し、ご本人の意向や生活歴等を十分にお聞きしてから、それに応え得る力量が自分達にあるかを判断した上で入居をお受けしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約の前に必ずインテークの為に自宅を訪問し、ご家族の意向や不安点などを十分にお聞きしてから、それに応え得る力量が自分達にあるかを判断した上で入居をお受けしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークの段階で十分に必要情報を聞きし、柔軟な対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝のゴミ出しや洗濯物たたみ、食器拭きなど、家事動作を入居者と一緒に行う事で関係性を築いている。 また誕生日の方にはプレゼントをあげてお祝いするなどして良い関係づくりを築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	極力ささいなことでも電話で報告や相談を行うようにしている。またなかなか来所いただけないご家族にも月に一度は写真を添付したお便りを送り、近況をお伝えしている。 ホームパーティーや遠足などの家族参加の企画も実践している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人が来所された時はお話が楽しめる様な空間づくりに配慮したり、正月には馴染みの方に年賀状が届くように作成している。 また馴染みのお店にご飯を食べに行くなどの企画も実施したことがある。	面会時間に特段制限を設けず、オープンに受入れています。また事業所では「誕生日にはなじみの店に～」を推奨していて、孫や親しい店主も同席しておでんを堪能した人もいます。また毎日焼酎の水割りの晩酌を続けている人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を考え、おだやかにお過ごしいただけるような配席にしている。 また集団でのカラオケや手作り企画などのレク活動も実施し、孤立しない環境を作っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院する等で退居になった場合でも今後のご家族の意向をお聞きし、お力になれる部分はあるのかをご家族と相談している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初期のインテークのみならず、ここでの生活が始まってからのご本人の様子、ご家族の気持ちを常にお聞きし、プラン作成に努めている。 また会議体でその希望を職員が共有できるよう努めている。	職員が個人の自己目標に「〇〇さんと外食に行く」と掲げる職員もいます。個人目標は一覧表で共有していて、「シフトを交代してあげよう」との同僚の支援を受けて利用者さんとお出かけが実施へと進んでいて、チームで意向実現に取り組んでいることが伝わります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク時、御本人とご家族より生活歴を始めとした情報収集に努めている。またその情報も判定会や申し送り等で全職員に周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方に合った生活を提供できるよう、日々現状の把握に努めており、情報は介護記録や申し送りに落とすようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス会議等を通じて、職員の意見、医師、家族の意見等、様々な方の意見を伺い、プラン作成に努めている。	介護計画書は、1枚に3名分記載した集約版を改めて用意することで、職員が情報把握しやすくなっています。またそのシートの番号を付しながら、介護記録には「やったか、やらないか」をつけ、介護支援専門員のモニタリングを助けています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にプランの達成を図る仕組みを取り入れたり、申し送り、インシデント用紙を利用して職員同士で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他の施設で働いていたことがある職員の知識や経験を取り入れたり、夜間の外出やご家族も参加する遠足企画など、新しいサービスに挑戦している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域主催の行事には出来るだけ入居者の方々にも参加してもらえるように努めている。近くのスーパーや薬局などに一緒に買い物行ったり、外食することもある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診を通じて、医師とともに入居者の心身に合わせた医療を提供している。	月2回訪問診療くださる協力医に18名中16名が変更していて、突発的な通院は職員がおこないますが、専門医は家族にお願いしています。申し送りファイルに全員の情報が1枚に整理され、業務のスリム化も図られています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護による週2回の医療連携により、情報共有が図られる。またDS看護師との連携もあり、適宜必要な処置が受けられる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員さんとの連携にはもちろん、入院時はケアマネ等が病院に出向き、状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りと重度化に関する指針を定め、希望される方にはそれに則り、他職種連携とご家族の協力を得ながらチーム支援に努めている。	本年度の看取りは1名でした。週2回健康管理くださる訪問看護事業所と協力医の訪問診療の日が同じとなるようになっていて、情報共有が確かです。そのため看取りは医師、看護師の指導が具体的に得られ、職員は安心して取り組むことができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看介護職は普通救命講習を受講している。また事業所内の勉強会でも緊急時対応等の学習の場も設けている。訪問診療医は夜間も対応可能である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	9月に実施した防災訓練には消防の方と連絡を取り、実際に防災訓練を見て指導していただいた。夜間想定訓練は行いが、実際の夜間における招集訓練や避難訓練は未実施である。	年2回の法定訓練の内1回は消防署職員の立ち合いをお願いして、これまで取組んでいた内容を実際みてもらえ、具体的な助言を得ることができ、避難経路のことや職員の心構えなど有益に習熟できる機会となっています。残りの1回は3月を予定し、夜間想定で準備を進めています。	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	湖山医療福祉グループである百葉の会では「こやまケア」なるケアの指針に基づき日々業務に当たっており、接遇に関しては気を配っている。	トイレの棚は中身が見えないようにと職員手作りの目隠しカーテンが配され、利用者に声をかけるときは1呼吸おく姿も見られ、来客者には立ち止まって挨拶するなど、マナーや配慮が至る処に在ります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行う時は、まずはご本人にお聞きしてから支援するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様の個々のペースに合わせた生活づくりの提供を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を決める際は職員が一緒に選ぶなどして、御本人が選びやすい環境を作っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	パンが好きな方にはパンを提供する等、お一人お一人のお好きな物をお聞きするのはもちろん、その方の可能な範囲で支度や片づけを行っている。	食材は業者搬入をメインとしてプラスαを近くのスーパーマーケットで足して、利用者の要望に応えています。家庭的な献立と味付けながら、人参を星型にしたり、イチゴには星形クリームを絞ったりと、細やかな心遣いが感じられます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録に食事量と水分量を個々に記録、管理している。栄養士が設計した献立と材料をもとに発注し、手作りの料理の提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各居室の洗面台で口腔ケアを実施している。うがいが出来ない方はデンタルブラシやマウスウォッシュ等を用いて個々の状態に合わせた口腔ケアを行っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、個々に合わせたタイミングでのトイレ誘導を実践している。車椅子の方でもトイレ誘導を行う。日中のベッド上でのパット交換は極力行わないようにしている。	平均介護度3.05度で、4名が2人介助となっていますが、事業所としては「車いすとなってもトイレで」を奨励していて、介助があれば実際未だトイレでおこなえています。日中は布パンツ、夜間はパットをつけてという対応の人もいて、夜間は安眠優先の環境をつくっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師より薬が処方されている方には、医師、看護師の指示を徹底している。日曜日の元気体操にも参加し、体を動かす事で排便に繋げるよう努めている。 10時の補水の際にお茶ではなく牛乳をつかった飲み物等を提供することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	医療的処置の必要性の関係上、入浴日が決まってしまう場合もあるが、お客様の入浴の希望を確認し、個々の好みの時間や温度で提供している。	入浴は最低限週2日を目安とし、「毎日入りたい」「夜、入りたい」という人の希望に対応しており、大抵のことは調整しています。アルコール消毒、カビ除去剤をつかった掃除を位置付けて清潔を保ち、利用者は湯船に浸かれれば歌をうたう人もいて喜ばれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の身体状況に合わせてお昼寝の時間を提供したり、就寝の時間も個々の状態に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と連携し、薬の変更があった際には全ての職員が把握できるよう申し送り、服薬管理表、医療連携表などで周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゴミ捨てや掃除、食器拭きや洗濯干し等、出来る事は極力役割をもって頂いている。新聞を読んだり、テレビ、カラオケ、将棋、タバコや習字、ぬり絵や飲酒等、趣味や嗜好品も楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物好きな方には一緒に出掛けたり、近隣の散歩を楽しんでいる。年間通じての企画では、お誕生日企画や、遠足など、様々な機会を提供している。	レクリエーションの一環として、併設事業所や近くの公園に遊びにでたり、買い物に出ています。玄関脇のベンチで外気浴したり、2階のベランダで向日葵を育てたりもしています。お花見(桜)、梅ヶ島(紅葉)、秋の遠足、青葉公園のイルミネーションが恒例行事として定められています。	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は事業所側で行っているが、外出の際には、可能な方にはお財布からお金を支払って頂き、社会参加活動を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お正月にはご家族へ年賀状を書いて投函するといった企画を毎年行っており、ご家族からも評判が良い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの臭いで不快にならぬよう、清掃や芳香剤の使用等を行っている。フロアには季節の飾りつけを四季ごとに行ったり、前月の行事企画の写真を飾ったり、塗り絵や習字等の作品も掲示するようにしている。	利用者の顔入りのお雛様を折り紙で作成したうえで、菓子箱を利用して釣り雛へと創り上げた見事なクラフトをはじめ、デイサービスの資源や知恵が生かされたものが沢山あります。キッチンはいランドで調理の音や匂いが心地よく流れ、温かみのある穏やかなリビングです。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブル席は気の合った方同士で座って頂くよう配慮している。窓辺には椅子を置き、日光浴をしながらゆったりとんびり過ごせるような空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団や家具類などはご本人が使い慣れた物を利用して頂いている。壁にはご家族の写真などを貼り、安心して過ごして頂けるよう工夫している。	在宅の頃趣味としていたパッチワークを壁いっぱい飾る居室には娘、息子、孫、ひ孫が一堂に会して年数回訪れていて、毎回職員が写真撮影しています。2ヶ月に1度職員とつくるカレンダーとともに家族写真が大きく引き伸ばされていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の歩行状態に合わせてシルバーカーや歩行器、車いすを使用している。安全に移動ができるよう導線上に物は置かないようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202148		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホームみずあおい 2階		
所在地	静岡県静岡市葵区北3丁目26-29		
自己評価作成日	平成30年2月15日	評価結果市町村受理日	平成30年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2274202148-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成30年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

湖山医療福祉グループ理念「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」とGHみずあおい理念「居心地の良いぬくもりあふれる光の中で楽しい時間をいつまでも」を実践すべくお客様中心のケアが出来るように職員みんなで日々努めています。

またみずあおいに来て良かったと思ってもらえるように新しい取り組みや企画を考え、お客様たちに喜んでもらえるように日々努めており、行事や企画の写真を撮影してフロアに飾ることで居心地の良い明るい雰囲気を演出し、なかなか会いに来れないご家族の方々にも生活が分かるように毎月1回は写真付きのお便りを郵送して関係性を繋いでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「初めて」の焼き芋大会は星のしずくの職員が大きな窯で焼く作業を仕切ってください、ほかにもグループホームゆひもやとは職員交換実習、グループホーム百葉わらしなどはお互いの夏祭りに利用者や職員が訪問し合うといったことが日常的にあり、29の事業所をもつ法人のスケールメリットを生かした活動があります。また地域では昨年には組長の役も担い、防災・環境整備や祭りの神輿もかついで地域住民に溶け込み、本年度は地域性を鑑み「土砂災害に関する避難確保計画」を策定し、2月に訓練をおこなっています。ISOを導入したことも基盤となり、業務のスリム化が推進されていることも随所で確認でき、大いに頼もしい事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念(部署理念)をフロアの壁に掲示し、職員と共有を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	朝晩のあいさつの徹底はもちろん、運営推進会議や祭りなどを通して地域交流を図っている。地域行事にも可能な限り参加し、1月には焼き芋大会を開催して地域の方々にもお配りした。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設12年を経て、地域への浸透も進み、ご家族からの直接相談が増えてきた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各種報告や意見交換の中からサービス向上につながる取り組みを実践している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類提出や相談事項等はなるべく電話や郵送で済ませず、行政窓口へ直接足を運び、関係性を築いていけるように努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修参加や事業所内勉強会等を通じ、全ての職員が身体拘束をしないケアを理解し、取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加や事業所内勉強会等の学ぶ機会を設けており、虐待防止に努めている。「こやまケア」なるケアの指針に基づき、御本人を尊重したケアに努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については学ぶ機会を設けられていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は所長が行い、不安や疑問を解消した上での契約を心掛けている。改訂の際も説明会を開催してご家族の同意を得た上で進めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	誰もが利用できる場所にご意見箱を設置し、毎月のお便りにもご意見欄を作成している。また年に1回顧客満足度アンケートを実施しており、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業計画策定のアンケートを職員全員に取り、事業計画作成に役立てている。また運営会議、部署会議等で職員の提案や意見を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	最低でも年に2回は個別面談を行い、個々の職員の抱える問題に向き合っている。直近は「業務のスリム化」に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や事業所内勉強会、新人教育のOJT、介護福祉士の実務者講習など、職員教育の仕組みがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所との交換実習やケア評価等を通じて交流を図っている。地域包括主催のネットワーク作りにも毎回参加している。交流のある施設からの見学や入居問い合わせなどの事例もあった。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居契約の前に必ずインテークの為に本人様の自宅を訪問し、ご本人の意向や生活歴等を十分にお聞きしてから、それに応え得る力量が自分達にあるかを判断した上で入居をお受けしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約の前に必ずインテークの為に自宅を訪問し、ご家族の意向や不安点などを十分にお聞きしてから、それに応え得る力量が自分達にあるかを判断した上で入居をお受けしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークの段階で十分に必要情報を聞きし、柔軟な対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝のゴミ出しや洗濯物たたみ、食器拭きなど、家事動作を入居者と一緒に行う事で関係性を築いている。 また誕生日の方にはプレゼントをあげてお祝いするなどして良い関係づくりを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	極力ささいなことでも電話で報告や相談を行うようにしている。またなかなか来所いただけないご家族にも月に一度は写真を添付したお便りを送り、近況をお伝えしている。 ホームパーティーや遠足などの家族参加の企画も実践している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人が来所された時はお話が楽しめる様な空間づくりに配慮したり、正月には馴染みの方に年賀状が届くように作成している。 また馴染みのお店にご飯を食べに行くなどの企画も実施したことがある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を考え、おだやかにお過ごしいただけるような配席にしている。 また集団でのカラオケや手作り企画などのレク活動も実施し、孤立しない環境を作っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院する等で退居になった場合でも今後のご家族の意向をお聞きし、お力になれる部分はあるのかをご家族と相談している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初期のインテークのみならず、ここでの生活が始まってからのご本人の様子、ご家族の気持ちを常にお聞きし、プラン作成に努めている。 また会議体でその希望を職員が共有できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク時、御本人とご家族より生活歴を始めとした情報収集に努めている。またその情報も判定会や申し送り等で全職員に周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方に合った生活を提供できるよう、日々現状の把握に努めており、情報は介護記録や申し送りに落とすようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス会議等を通じて、職員の意見、医師、家族の意見等、様々な方の意見を伺い、プラン作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にプランの達成を図る仕組みを取り入れたり、申し送り、インシデント用紙を利用して職員同士で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他の施設で働いていたことがある職員の知識や経験を取り入れたり、夜間の外出やご家族も参加する遠足企画など、新しいサービスに挑戦している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域主催の行事には出来るだけ入居者の方々にも参加してもらえるように努めている。近くのスーパーや薬局などに一緒に買い物行ったり、外食することもある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診を通じて、医師とともに入居者の心身に合わせた医療を提供している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護による週2回の医療連携により、情報共有が図られる。またDS看護師との連携もあり、適宜必要な処置が受けられる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員さんとの連携にはもちろん、入院時はケアマネ等が病院に出向き、状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りと重度化に関する指針を定め、希望される方にはそれに則り、他職種連携とご家族の協力を得ながらチーム支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看介護職は普通救命講習を受講している。また事業所内の勉強会でも緊急時対応等の学習の場も設けている。 訪問診療医は夜間も対応可能である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	9月に実施した防災訓練には消防の方と連絡を取り、実際に防災訓練を見て指導していただいた。 夜間想定訓練は行うが、実際の夜間における招集訓練や避難訓練は未実施である。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	湖山医療福祉グループである百葉の会では「こやまケア」なるケアの指針に基づき日々業務に当たっており、接遇に関しては気を配っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行う時は、まずはご本人にお聞きしてから支援するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様の個々のペースに合わせた生活づくりの提供を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を決める際は職員が一緒に選ぶなどして、御本人が選びやすい環境を作っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	パンが好きな方にはパンを提供する等、お一人お一人のお好きな物をお聞きするのはもちろん、その方の可能な範囲で支度や片づけを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録に食事量と水分量を個々に記録、管理している。栄養士が設計した献立と材料をもとに発注し、手作りの料理の提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各居室の洗面台で口腔ケアを実施している。うがいが出来ない方はデンタルブラシやマウスウォッシュ等を用いて個々の状態に合わせた口腔ケアを行っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、個々に合わせたタイミングでのトイレ誘導を実践している。車椅子の方でもトイレ誘導を行う。日中のベッド上でのパット交換は極力行わないようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師より薬が処方されている方には、医師、看護師の指示を徹底している。日曜日の元気体操にも参加し、体を動かす事で排便に繋げるよう努めている。 10時の補水の際にお茶ではなく牛乳をつかった飲み物等を提供することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	医療的処置の必要性の関係上、入浴日が決まってしまう場合もあるが、お客様の入浴の希望を確認し、個々の好みの時間や温度で提供している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の身体状況に合わせてお昼寝の時間を提供したり、就寝の時間も個々の状態に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と連携し、薬の変更があった際には全ての職員が把握できるよう申し送り、服薬管理表、医療連携表などで周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゴミ捨てや掃除、食器拭きや洗濯干し等、出来る事は極力役割をもって頂いている。新聞を読んだり、テレビ、カラオケ、将棋、タバコや習字、ぬり絵や飲酒等、趣味や嗜好品も楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物が好きな方には一緒に出掛けたり、近隣の散歩を楽しんでいる。年間通じての企画では、お誕生日企画や、遠足など、様々な機会を提供している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は事業所側で行っているが、外出の際には、可能な方にはお財布からお金を支払って頂き、社会参加活動を支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お正月にはご家族へ年賀状を書いて投函するといった企画を毎年行っており、ご家族からも評判が良い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの臭いで不快にならぬよう、清掃や芳香剤の使用等を行っている。フロアには季節の飾りつけを四季ごとに行ったり、前月の行事企画の写真を飾ったり、塗り絵や習字等の作品も掲示するようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブル席は気の合った方同士で座って頂くよう配慮している。窓辺には椅子を置き、日光浴をしながらゆったりとんびり過ごせるような空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団や家具類などはご本人が使い慣れた物を利用して頂いている。壁にはご家族の写真などを貼り、安心して過ごして頂けるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の歩行状態に合わせてシルバーカーや歩行器、車いすを使用している。安全に移動ができるよう導線上に物は置かないようにしている。		